

2024年度 教員の自己点検・自己評価報告書

所属学部 学科	職位	氏名
経営学部 地域ビジネス学科	教授	中山 孝男
最終学歴	学位	専門分野
一橋大学大学院経済学研究科理論経済学及び統計学 専攻博士後期課程単位修得満期退学	経済学修士	経済学

I 教育活動

○理念・目標・方針・計画（方法）

【理念】

「何事も基礎が重要」との基本方針のもと、演習も含め、すべての担当科目で最も基礎のレベルからの教育を実践する。

【目標】

今年度担当するすべての科目が、主に下級生が履修する科目になったので、上記【理念】で述べたこと（基礎からの教育）をそのまま実践する。

【方針】

「経済学」「学びの基礎Ⅰ・Ⅱ」「現代経済学」の講義科目では、すべてテキストを明確に提示し、その内容をきちんと理解できるように授業において説明する。その上で、若干の応用的な内容に言及し、意欲的な学生の向学心に応えるよう工夫した授業を展開する。

【計画（方法）】

上記【方針】で述べた通り、テキストを配布し、授業できちんと説明し、科目によっては（これも配布する）「確認問題集」で授業の内容理解を確認する。

○担当科目（前期・後期）

（前期）

「経済学」「学びの基礎Ⅰ」「基礎演習Ⅰ」

（後期）

「現代経済学」「学びの基礎Ⅱ」「基礎演習Ⅱ」

○教育方法の実践

- ・前期の「経済学」では、シラバスで予告した授業内容をまとめた予習ペーパーを Teams で事前に送付した上で、各回の授業で扱う PPT ファイルの印刷プリントを授業冒頭で配布し、それを用いて説明を進めた。そして、授業終了前に（これも事前に配布してある）「授業確認問題集」の答え合わせをして、理解を深めるとともに、授業内容の確認をした。
- ・後期の「現代経済学」では、ここ数年行ってきたように、入門レベルのテキストを使用して、各回の授業開始時に、授業で扱う PPT ファイルの印刷プリントを配布し、それを用いて説明を進めた。授業終了時には、確認テストないし小テストと称して、簡単な問題を解答・提出させ、次回の授業でその解説を行い復習とした。
- ・前後期の「学びの基礎」では、主に自作のテキストを用いて文字通り漢字・数量的知識の基礎から確実に理解できるように授業を進めた。

○作成した教科書・教材

- ・「学びの基礎Ⅰ 2024年版」「学びの基礎Ⅱ 2024年版」「経済学<確認問題集>2024年版」

○自己評価

- ・「経済学」では、授業で扱いたい内容が少し多すぎたので、学生の理解も不十分だったように思えた。次年度の担当者には、質と量のちょうどよいバランスがとれるように注意することを申し送りたい。
- ・「現代経済学」では、やはり学生の興味をどのように持たせるのか、が最も難しかった。
- ・「学びの基礎」では、科目の内容と性格上、一定のプレースメントテストのようなことを行い、履修者を限定した方がよいと考える。

Ⅱ 研究活動

○研究課題

D.リカードウ『経済学および課税の原理』第7章における比較生産費説の論理の解明

○目標・計画

【目標】

単純な理解ではわかりやすい上記課題であるが、近年その「最終証明」などと謳う書物が出版された。本学説の解明は、D.リカードウの学説を長年研究対象としてきた私にとって、研究生活最後のテーマにふさわしいものであり、それは要するにどのような主張であり、彼の主著においてどのような意義づけがなされるべきなのかを、明らかにする。また、そうしたことを通じて、今まで行ってきた研究課題との理論的関連を常に意識していく。

【計画】

これまでに買いためてきた代表的な専門書などを丁寧に読み返し、今年度中に論文として発表する。

○2017年4月から2025年3月の研究業績（特許等を含む）

（著書）

- ・なし

（学術論文）

- ・中山孝男「リカードウ新機械論に関する一小論——機械導入後を中心として——」『東邦学誌』第50巻第2号、2021年12月

（学会発表）

- ・なし

（特許）

- ・なし

（その他）

- ・経済理論学会第70回全国大会（2022.10.東京経済大学）において、『絶対価値と交換価値』とリカードウの不変の価値尺度」（石井穰報告）に対するコメンテーター役を果たした。
- ・経済理論学会第71回全国大会（2023.11.東北学院大学）において、『絶対価値と交換価値』研究史—戦後日本のリカードウ研究との関連で—」（石井穰報告）に対するコメンテーター役を果たした。

○科学研究費補助金等への申請状況、交付状況（学内外）

- ・なし

○所属学会

- ・ 経済理論学会
- ・ 経済学史学会
- ・ マルサス学会
- ・ 政治経済学・経済史学会

○自己評価

今年度は、学会活動として全国大会レベルではとくに評価するようなものは行わなかった。

Ⅲ 大学運営

○目標・計画

【目標】

学内委員としては、自己点検・評価委員会、入試問題作成委員会の各委員として、また学園理事（労務担当など）として衛生委員会の委員長はじめいくつかの委員として、学園全般の運営に責任をもってあたらなければならないと考えている。

【計画】

授業担当コマ数が削減されているとはいえ、昨年度同様、受講生数の関係などで増担となっている。きちんと時間配分を考慮して業務遂行に心がけていく。とくに入試問題作成委員会委員としては、決してミスが許されない業務であるので、最大限の注意を払っていかなければならないと考えている。

○学内委員等

- ・ 入試問題作成委員会委員
- ・ 自己点検・評価委員会委員
- ・ 外部評価委員会委員長
(理事会関係で)
- ・ 衛生委員会委員長
- ・ 高大接続連携会議（年度途中から委員長）

○自己評価

上記各委員会のメンバーとして十分な活動を行ったと自己評価している。また、学園理事（労務担当など）として学園全般の運営にも十分責任を果たせたと自己評価する。なお、年度途中から、特別な業務（委員長）を任されたことも付言しておく。

Ⅳ 社会貢献

○目標・計画

【目標】

本学での教育・研究活動の成果をできるかぎり地域社会に還元するように努力する。また、今年も日本高等教育評価機構より大学認証評価委員に任命された。その仕事でもまた社会貢献に努めたい。

【計画】

東邦高校との高大連携授業や、他の高校から出張講義の依頼があればできるかぎり応じて貢献する。また、所属する経済理論学会の東海部会の会場校として学会活動の面でも積極的に協力する。

○学会活動等

上記、経済理論学会東海部会の会場校として2回研究会を開催した。この役割も、今年度限りと

なった。10年間以上にわたり、無事職務を遂行した。

○地域連携・社会貢献等

今年度は、特筆する活動を行っていない。

○自己評価

従来よりは、貢献度は低かったが、最低限のことは行ったと自己評価する。

V その他の特記事項（学外研究、受賞歴、国際学術交流、自己研鑽等）

自分の専門分野としているところでの教育・研究活動を進めていくのは当然のこととして、それ以外の（とくに社会科学の）分野においてもさまざまな知識や学問的成果をできるだけ吸収し、講義やゼミにおいて学生に伝え、学ぶことの楽しさ、大切さを感じ取ってもらえるような教育を是非とも実現したい。

VI 総括

私の大学教員としての最終年度となったが、(毎年記述しているとおり) 研究活動以外の面では、平均的な成果を残せたのではないかと自負している。研究活動は、今後も細々と継続していきたいと考えている。

以 上